

**ご挨拶・兵庫県との協力協定締結式（2007年度  
公開シンポジウム報告 心理療法と超越性 - 神話的  
時間と宗教性をめぐって）**

|     |   |
|-----|---|
| 雑誌名 | 心の危機と臨床の知   |
| 巻   | 9   |
| ページ | 5-8   |
| 発行年 | 2008-02-15  |
| URL | <a href="http://doi.org/10.14990/00002630">http://doi.org/10.14990/00002630</a> |

## ご挨拶・兵庫県との協力協定締結式

**総合司会** ただいまより、甲南大学人間科学研究所、へ心の危機と臨床の知〜第八回公開シンポジウム「心理療法と超越性

——神話的時間と宗教性をめぐって」を開催いたします。

初めに、甲南大学学長、杉村芳美よりご挨拶申し上げます。

**杉村** 皆さん、こんにちは。甲南大学学長の杉村でございます。本日は本学の人間科学研究所、第八回公開シンポジウムに多数ご参加いただきまして、ありがとうございます。

初めに、二〇〇七年七月一九日にお亡くなりになりました元文化庁長官、京都大学名誉教授でいらつしやいました河合隼雄先生のご冥福を心よりお祈りしたいと思います。本日も講演いただきますシンポジストの第一人、河合俊雄先生は河合隼雄先生のご子息でいらつしやいます。このような大変なご心痛の中にもかかわらず、本日のシンポジウムにご出演下さいましたこと、心より御礼申し上げます。

私も甲南大学は、河合隼雄先生に本当にいろいろな面で助けていただいてまいりました。本学の文学部人間科学科、カウンセリングセンター、学生相談室、そして本日のシンポジウムを主催いたします人間科学研究所の研究の活動は、河

合先生のご指導、ご支援の下で初めて形になってきたものでございます。先生はお忙しい時間を割いて、甲南大学に毎年ご講演に来てくださっていました。毎回多くの聴衆の皆さんに感銘を与えてくださいました。感謝の申しようもございません。そもそも日本の臨床心理学の分野そのものが河合先生によって切り開かれてきたことは、皆さまのご承知のとおりでございます。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

さて本日は、シンポジウムに先立ちまして、この後、本学・人間科学研究所と兵庫県との間の少子対策及び子育て支援推進に関する協力協定書の調印式を行なわせていただきます。少子化が急速に進む中、少子対策、子育て支援の推進は、日本社会にとつて最も重要な政治的、社会的な課題になっていきます。もちろん私も大学関係者にとりましても、将来の一八歳人口の動向を左右する深刻な問題であることは申すまでもありません。

兵庫県では、県の最重要施策として少子対策が取り組まれています。甲南大学でもこれまで人間科学研究所を中心に、子育て支援の試みを実施し、協力してまいりました。また、兵庫県下の大学全体が大学コンソーシアム、ひょうご神戸の組織をつくっています。そのコンソーシアムでも兵庫県と協力して、子育て支援の試みを行なっております。

本日調印されます協力協定書は、これまでの甲南大学と兵庫県との連携協力関係をより恒常的なものにし、強固にしていこうとするものです。今後甲南大学では県関係機関、他大学と協力しながらこの課題に取り組み、大学としての社会

的使命を果たしていきたいと思います。最後にこのことをお約束しまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございます。

### 兵庫県との協力協定締結式

昨年度の第7回公開シンポジウム「育てることの困難」に関する事業を一層展開するため、今夏、兵庫県との協力関係を結ぶこととなり、本シンポジウムの講演に先立って、協力協定締結式を執り行うこととなった。

**総合司会** ただいまより兵庫県と甲南大学人間科学研究所の少子対策及び子育て支援推進に関する協力協定締結式を執り行ないます。本日は、兵庫県理事兼少子対策本部事務局長、清原桂子様にお越しいただいております。甲南大学人間科学研究所からは、所長の森茂起が締結書に署名させていただきます。

(署名)

**総合司会** ありがとうございます。ここに、兵庫県と甲南大学人間科学研究所の少子対策及び子育て支援推進に関する協力協定の締結が成立いたしました。それでは、清原理事にご挨拶を頂戴いたします。

**清原** ご紹介いただきました兵庫県理事兼少子対策本部事務

局長の清原でございます。本日は甲南大学人間科学研究所と協定を結ばせていただき、本当にありがとうございます。

全国的に少子化が非常に大きな勢いで進んできておりまして、兵庫県でも三〇年前には年間一〇万人生まれていた子どもたちが、今は年間五万人を切っております。しかも、その大切な大切な、少なくなってきた子どもたちを巡って、虐待やいじめなどさまざまな問題が後を絶ちません。

そうした状況に対しまして兵庫県でも、各部、各県民局、県立病院、教育委員会等兵庫県のすべての部局が丸と成ってこの問題に取り組んでいくために、一昨年、知事を本部長といたします兵庫県少子対策本部を立ち上げて、今取り組んでいるところでございます。

しかしながら、もとより行政だけでなく、地域団体やNPO法人や企業、大学、そうした志を共にする方々と一緒に取り組んでいく協働の仕組みづくりに特に力を入れてきているところでです。

とりわけ大学との間におきましては、先ほど学長からお話しございましたように、この三月に兵庫県内の三〇の大学、一〇の短大等で構成されておられます大学コンソーシアム、ひょうご神戸と兵庫県井戸敏三知事との間で、協力協定を結ばせていただきました。あわせて、個別の研究所や個別の大学ともそれぞれの専門性を生かした形で協働していくために個別協定を結ばせていただくよう進めているところでございます。

個別協定といたしましては、昨年十一月に神戸大学の経済

## 甲南大学人間科学研究所と兵庫県との 少子対策及び子育て支援推進に関する協力協定書

甲南大学人間科学研究所と兵庫県は、それぞれで実施する少子対策及び子育て支援の推進において連携し協力することを目的として、以下の協定を締結する。

1. 両者は、少子対策及び子育て支援に関する分野において、以下について連携協力を行うものとする。
  - (1) 少子対策及び子育て支援事業等に係るシンポジウムや研究会等の実施
  - (2) 少子対策及び子育て支援事業等に係る取り組みの積極的推進
  - (3) 少子対策及び子育て支援事業等への学生等の参加促進
  - (4) 少子対策及び子育て支援事業等に係る情報等の相互提供
  - (5) その他、上記に関連する諸活動
2. この協定に基づく協力の具体的な活動内容及びその活動を実施する際に必要となる事項については、その都度、両者で協議し、調整するものとする。
3. この協定は、締結の日から3年間有効なものとするが、両者の協議により更新することができる。

本協定の証として本協定書を2通作成し、署名のうえ、双方で各1通を所持するものとする。

平成19年7月22日

甲南大学人間科学研究所長

森 茂起

兵庫県理事兼少子対策本部事務局長

清原 程子



経営研究所と結ばせていただきました。この甲南大学人間科学研究所は第二番目となりますが、人文科学の領域では初めての協定ということになります。非常に時代のニーズも高いこの領域で、たくさんの蓄積を重ねておられます甲南大学人間科学研究所との協定には、私ども兵庫県も非常に大きな期待を寄せさせていただいております。できることをできる者たちで、志を共にする者たちで始めていくために、一緒に取り組んでいただければと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。(拍手)

#### 総合同会

どうもありがとうございます。

続きまして、森所長よりご挨拶申し上げます。森先生、お願いいたします。

#### 森

このたび協定の締結が実現しまして、大変うれしく思っております。清原理事、ありがとうございます。

この締結に至りました背景には、昨年度開催しましたシンポジウムのテーマであります、「育てることの困難」に関する一連の研究事業があります。そしてさらにその背後には、本学の元教授である松尾恒子先生が長く続けてこられた子育て支援活動の長い歴史があります。現在この研究は人間科学研究所に引き継がれて、さまざまな事業を展開しています。

多くの先生方の協力を得て続けてきました研究の成果を生かし、より一層社会に貢献していくために、兵庫県と連携して今後さらに活動を続けていきたいと考えております。

少子対策という名前になっておりますが、われわれが貢献できる部分は、よい子育てが可能になる、子育て環境の改善です。引いては、それが少子化の改善にもつながっていくであろうと思います。子育ての問題を考えることなしに、今後の心理療法を考えることはできないのではないかとというのが私自身の考えです。そういった視点に立って、今日のテーマでもあります心理療法の背景となっている家族の問題、子育ての問題も考えていきたいと思っております。

これからも皆さま、ぜひ注目していただいで、今後の活動にさまざまな形で参加していただければと思います。どうも本日はありがとうございます。

#### 総合同会

ありがとうございます。以上で、兵庫県と甲南

大学人間科学研究所の協力協定締結式を終了いたします。

続きまして、シンポジウム第一部の講演に移りたいと思います。まず、企画者、横山博より、本日のテーマについてお話させていただきます。

